

令和7年度事業報告

特定非営利活動法人ぴゅあ・さぽーと

◆ 総括

まず、今年3月初め金額による入札結果で令和8年度港区介助員配置業務を受託できなくなり、次年度事業計画に大きな影響を及ぼすことになった。

経営は、この数年にわたり事業を整理して特別支援教育事業に専念できるよう縮小してきた。その結果、変動費となる非常勤給与は損益に影響しなかったが固定費となる常勤給与が影響して経営が厳しくなった。

また、事務経費では、保険料、リース料などで継続確認を怠ったことで不要な費用が継続され赤字要因のひとつとなった。

一方、本年度よりスタートしたラボ部門は、地域で特別支援教育をともに考える拠点となるよう研究会を発足させた。

また、支援員に向けては、研修、個別及びグループカンファレンスを強化して支援の質向上に努めた。

さらに、支援方法の研修動画は、体系的に整理して40本近く作成することができ今後の展開に繋げた。

最後に、起こるリスクを避けて、これまでどおりの運営が続かないということを痛感した年度であった。

令和8年度は、引き続き職員処遇を堅持できるよう新たな事業受託先を探して経営の安定を計れるよう努める。

◆ 課題

- NPO 法人の大半は、資金面、職員の処遇面などで課題があると云われている。今年度は、当法人も厳しい結果となったので、同様なリスクが起こったときの迅速な資金的対応を検討する必要がある。
- 経営悪化は、働く職員の処遇を劣化させるので、この法人のあり方を逸脱しないよう情勢を慎重に分析して他区への事業展開を検討する。
- 支援現場は、ラボ部門事業所職員の努力でこれまで大きな事故もなかったが、法人は、必要な戦略や組織ガバナンスが未だ整っていないので、リスクを未然に防げる安心で安定な組織作りが急務となる。

◆ その他

- 事業所のあり方は、支援員の話聞き、ともに考え、必要に応じて助言等を行うため、支援員が立ち寄れる環境とする。また、立会川事務所は、人事労務管理、勤怠管理、給与計算などを集中して一元管理する。
- ラボ部門は、引き続き地域で特別支援教育をともに考える拠点とする。さらに、学会及び研究会などへ情報共有できるようにする。

以 上